

(報道各社への取材の御案内)

## ～ 高木 典雄 市長、今年を振り返る～

今年も残すところ、あと半月となりました。

まず、今年は7月の九州北部豪雨により周辺地域が被害に見舞われました。本市では、被災地に一番近い自治体として「できる支援はすべてやる」という思いのもと、住民のみなさまとともに支援に取り組んできました。



ハード事業では、うきは市と久留米市にかけて約 33 分の工業用地整備事業について、事業主体の福岡県企業局が5月に造成工事に着手し、順調に推進しているところです。同じく県が建設中の主要地方道八女香春線「合瀬耳納工区トンネル工事」については3月に貫通式が行われ、来年度には開通が予定されているところです。また、県営藤波ダムの維持放流水を活用した再生可能エネルギーの導入として、本市が設置した「うきは藤波発電所」が3月から発電を開始しました。今後とも、自然豊かな本市の環境保全や地域資源の有効活用を図って参りたいと考えています。



また今年も、郷土の偉人の節目の年でもありました。江戸時代、筑後川の岸壁を掘り進め水を引く偉業を成し遂げた大庄屋・田代重栄氏の没後 330 年、また、日本初の農民劇団「嫩葉会」を立ち上げた医師・安元知之氏の没後 90 年、そして20世紀の世界の報道人百人に選ばれた菊竹六鼓氏の没後 80 年であり、顕彰事業に取り組みながら歴史に学ぶことの重要性を感じることができました。



拠点施設である道の駅うきはについて、九州じゃらん 7 月号の九州・山口の道の駅ランキング 2017 で 2 年連続第 1 位となりました。

また、重点「道の駅」に選定されている道の駅うきはで、国土交通省が整備した防災広場が先日完成し、その隣接地では大正時代 14 年に嫩葉会が中心となり造られたギリシャ式野外円形劇場(写真)の再生整備も行われ、いよいよ来週 21 日、披露されます。



最後に、来年は明治元年から 150 年目に当たります。明治期には、若者や女性が新たな道を切り拓きました。本市では、明治元年生れで福井県知事や名古屋市長等の要職を歴任した佐藤孝三郎氏、その子息で日本国憲法の政府原案を作り上げた明治 37 年生まれの法制官僚・佐藤達夫氏、また英文学者で、九州大学英文学初代教授や青山学院大学長などを務めた豊田實氏などがおられます。

地方創生といわれるなか、明治期の人々のチャレンジ精神を知る機会を設け若い人たちに伝承し、その精神を地域力の向上へ活かすことも重要だと考えています。

編集：うきは市総務課広報係 (Tel.0943-75-4980)

※FAX を手にとられた方は、「うきは市ホームページ」掲載のカラー版を御覧ください→検索 うきはブランド通信

2017.12.15 発表／高木典雄市長、今年を振り返る